

医学部・医学系研究科

I	研究水準	研究 3-2
II	質の向上度	研究 3-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、論文のインパクトファクター（IF）は、単なる研究上の一つのパラメーターではあるものの、平成 16 年度以来現在に至るまで明らかな減少が見られる。しかし、教育職員一名当たりの論文数及び著作数が平成 16 年度は 1.28 件、平成 17 年度は 4.11 件、平成 18 年度は 2.78 件、平成 19 年度は 2.32 件と相当な件数となっていることは、相応な成果である。

以上の点について、医学部・医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、医学部・医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

2. 研究成果の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、Nature、Science 等、世界のトップレベルの雑誌を含む高いインパクトファクター（IF）誌へ多数の論文が掲載されていて、その結果が広く社会に貢献している。社会、経済、文化面では、知的クラスター創成事業岐阜・大垣地域プロジェクトにおける眼底写真の CAD の研究プロジェクトが他府省連携として発展し、平成 18 年度・平成 19 年度の経産省の地域新生コンソーシアム研究開発事業に採択されたことは、相応の成果である。

以上の点について、医学部・医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、医学部・医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えようような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

II 質の向上度

1. 質の向上度

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

改善、向上しているとはいえない

[判断理由]

「改善、向上しているとはいえない」と判断された事例が 4 件であった。

「改善、向上しているとはいえない」と判断された事例の判断理由は以下のとおりである。

○「医学教育開発研究センターとともに申請した特色 GP・現代 GP 2 件採択」については、法人化時点との比較検証なされていないため、改善、向上しているかを読み取れない。以上のことから、改善、向上しているとはいえないと判断される。

○「分野横断型研究プロジェクトを推進」については、法人化時点との比較検証なされていないため、改善、向上しているかを読み取れない。以上のことから、改善、向上しているとはいえないと判断される。

○「ヒト ES 細胞を用いた再生医学研究の推進」については、記述内容に具体性が乏しく、「成果の一部は国際誌に論文発表した」等の曖昧な記述である点で、改善、向上しているとはいえないと判断される。

○「地域医療に関する研究」については、資料が提示されていない点で、改善、向上しているとはいえないと判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、判定を以下のとおり変更し、第 1 期中期目標期間終了時における判定として確定する。

[判定]

相応に改善、向上している

[判断理由]

「相応に改善、向上している」と判断された事例が 4 件であった。